

## 巻頭言



福岡県知事 小川 洋

# アジアに開かれた交流拠点を目指して

福岡県は、アジア諸国と地理的に非常に近く、世界文化遺産に登録された『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』に代表されるように、古代からアジアの玄関口として発展してきたという、長い歴史と実績があります。

今後、グローバル化、少子高齢化が進展する中、本県が持続的に発展していくためには、地理的・歴史的に関係が深く、成長著しいアジアを中心にその活力を取り込み、ともに発展していくことが重要です。

このため、本県は、中国の江蘇省、タイのバンコク都、インドのデリー準州、ベトナムのハノイ市、米国のハワイ州との友好提携のほか、海外との懸け橋である海外福岡県人会、「福岡に恩返しを」との共通の思いを持つ有志により設立された元留学生会などのネットワークを最大限に生かし、経済、環境、観光にとどまらず、文化・芸術など様々な分野での交流を進めることで、国際交流の間口を広げ、その奥行きを伸ばしていきたいと考えています。

また、本県には、38の大学をはじめ大学院、短期大学、高等専門学校といった高等教育機関が数多く集積しており、留学生は約2万人と、東京、大阪に次ぐ全国第3位の規模となっています。加えて、本県の外国人労働者数は2019年に5万人を超えるなど、多くの外国人の方が本県で生活をしています。

こうした外国人の方がいきいきと暮らし、持てる力を発揮して活躍するためには、言語や文化の壁を越え安心して生活できる環境づくりが必要です。そのため、2019年7月に日本語を含めた19言語に対応した「福岡県外国人相談センター」を設置したほか、地震や台風などの災害発生時には、多言語による防災情報メールの発信や、災害時多言語支援センターを設置し、県内市町村への翻訳・通訳の支援を行うこととしています。また、今年度からは、外国人の方が、より身近な場所で日本語を学ぶことができるよう、地域の日本語教室の運営体制を整備する取り組みを行っているところです。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外との人の往来が制限されていますが、国際交流を絶やさぬよう、オンラインを活用した新たな交流の形も始まっています。

これからも、外国人の方がより安心していきいきと暮らせる環境の整備など、必要な施策に取り組むことで、外国人の方に選ばれる地域づくりを進め、アジアに開かれた交流拠点を目指してまいります。